

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2010年秋号

サニーサイドファミリーキャンプ

ディビッド・タノ師一キャンプ委員会長

今年のキャンプのテーマは「信仰」で、そのテーマどおり、参加者の信仰の復興となるすばらしいキャンプを持つことが出来ました。

英語のスピーカーは木下家のディビッド・ウッドさんでした。彼は今BC州のポートコクイトラム・アライアンス教会の牧師をしています。彼は、聖書の理解を深めるのを助けてくれると共に、私たちキャンパーにチャレンジを与えてくれました。

日本語のスピーカーは、日本の米沢興譲教会より高野昭師を招きました。高野師は1970年代にCJMの働きを通して救われ、サニーサイドキャンプにも過去にカウンセラーとして参加して下さった経験のある方です。そして彼の息子ジェイソン君は、今年カウンセラーとしてキャンプに参加して下さり、親子そろっての奉仕は、キャンプに大きな祝福をもたらしてくれました。ハヤシザキ・ダニエルさんとマツイ・トムさんが日本語キャンパーの指揮をとって下さり、とてもすばらしいときを過ごしました。

英語キャンパーの指揮をとったのはシュクダ・ロブソンさんと、ハセガワ・ロブさんでした。英語キャンプの方も、2人の指揮により神様の臨在豊かなものとなり、2人の方が洗礼を受ける証人としての恵みにもあずかりました。受洗されたのはマスダ・クリスティーンさんとコリアー・ベンさんです。おめでとうございます！

キャンプも終わり、参加者すべてが帰途に着きましたが、本当のチャレンジはこれからです。キャンプでの経験、キャンプ中に心に決めたことなどが、忙しい毎日の生活パターンに戻る中で失われてしまうことなく、それぞれの場所で神様に寄り添った生活をキャンプ参加者がしていけるように、どうぞお祈りください。

2011年度のキャンプは7月24日から30日に行われます。どうぞ皆さん、祝福とすべてのよきことの源である神様がなして下さることに期待して、是非キャンプにご参加ください。*



第24回北東日系クリスチャン修養会は、今年7月31日から8月2日（土～月）まで、昨年同様、トロントから車で西に約1時間グエルフ近くにある、長年の会場・クリーフ・ヒルズ・コミュニティで開催されました。



北東日系 クリスチャン コンファレンス

村井優人牧師一コンファレンス議長

講師は、昨年と同じ島田直牧師です。同師は、カリフォルニアにあるサン・ロレンゾ日系キリスト教会日本語牧師であり、奥様の知子夫人を昨年同様同伴され

ました。この奥様はピアニストとして、同先生のお働きををよくアシストされております。

今回の修養会には、大人26人と子供2人のフルタイマー、大人6人と子供2人のハーフタイマー、大人18人と子供2人のデイゲストが参加されました。ほぼ例年同様です。昨年同様、独身青年たちの参加が目立ち、長年の参加者によって良い励ましとなりました。

以上を踏まえ、今年の修養会も、現地日本人コミュニティーの中にあつて、キリスト教修養会としての歴史をさらに一年加えることができました。来年2011年は、四半世紀の節目となる大切なご奉仕の年となります。



今年の修養会テーマはローマ8章28節であり、講師の島田先生はそれを踏まえ、4回の聖書の学びをして下さいました。

第一は創世記12章1-4節のアブラハムの生涯から、第二は創世記50章15-21節のヨセフの生涯から、第三はルカ22章31-34節のペテロから、最後は2コリント12章1-10節のパウロからでした。礼拝はガラテヤ5章16-26節の「聖霊の導きに従って歩みなさい」でした。修養会後のアンケートで、参加者全員、講師のメッセージと奥様のピアノご奉仕を満喫したとのことでした！また、数人の若者が主を求め信仰を表明しました。

お祈りの課題として、

主が、修養会委員に新しい委員を起こして下さること。現在、数名の委員が、まだまだ力がありますが、70台に突入しました。

主が修養会にまだ主を信じていない多くの方々を送って下さり、次年度の修養会が皆さまにとって祝福となること。

主が、修養会委員を導き励まし、四半世紀になる来年の修養会をよく準備することができるように。現委員は、小笠原杜男・マリ子、岩井正三・曜子、千葉礼子、村井優人・春美、そして顧問の三上洋輔です。

主が次年度修養会にふさわしい講師の先生をお送り下さるよう。当修養会を代表し、こころから皆さまのお祈りとご支援を感謝申し上げます。

*

レスブリッジ日系クリスチャンフェローシップ



日曜礼拝：午後2時よりFirst Baptist Churchにて。1614-5th Ave. South, Lethbridge, AB
牧師：秋山賢 電話：403-317-1987 Eメール：sakiyama@telus.net



秋山賢牧師 真理夫人
創平君 (11) 有紗ちゃん (9)

カズ・ハヤシザキ

御名を崇め、たくさんのお祈りとサポートを感謝します。

秋山先生が体調を崩され、7月、8月と休暇をとられました。その間、たくさんのお祈りが捧げられ、主の恵みと憐れみの中、聖日礼拝が守られ、訪ねてくださる方々や、新しく礼拝に加えられた方々も与えられています。礼拝

メッセージを取り次いで下さる先生方、兄弟方が与えられ、心から感謝しています。

カルガリーから池の上岩男先生、石黒豊兄、エドモントンから小林正則先生、スリーヒルズから市川ベン先生、大場元紀兄、又、これまで通り第2、第4聖日に、ロンダークス先生が来て下さいました。

礼拝、祈祷会が守られただけでなく、例年のフィッシングデーやプレイズナイトなどの集まりも行うことができました。サニーサイドキャンプにも教会から奉仕者が与えられ感謝でした。何よりも教会がキリストのからだとして、互いに助け合い、励ましあい、愛し合うことを学ぶことができたことは、大きな恵みとなりました。

秋山先生は、しばらく続いた足先のしびれが、背骨の矯正と、首と肩の治療後、すっかり癒されました。現在、左肩の痛み悩まされています。左手ではパソコンが打てず、洋服を着るのも困難です。痛みで眠れないことも続いています。四十肩（フローズンショルダー）と診断されていますので、1日3回のリハビリ運動に励んでおられます。

引き続き様々なストレスを抱えておられる中、9月は以前よりゆっくりなペースで主に使えて下さるよう、教会、又CJMアドバイザリー委員会よりお願いされています。

又、特に忙しい夏の間、真理先生の体調も優れず、先生の看病も加わって、現在も弱きをおぼえておられます。お二人のため、子どもさん（Josh, Amy）のためにも続けてお祈り下さい。

すべてを益としてくださる主に感謝しつつ。*

献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

Brenda Ohara-Peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON L4Y 2J1

Tel.: 905-949-4182
Email: bjobjo@aol.com



ノブオ・マツバラ牧師、主と共に

マツバラ・ノブオ師は、漁師の町であるBC州のステイブストンで、7人兄弟の大家族の一員として生まれました。強制収容が行われる前に、彼の母親は医療上の理由により、下の3人の子供を連れて日本へ帰っていました。そしてノブオを含む、カナダに残された家族は、父親ケンタロウと共にマニトバのホーム

ウッドに非難しました。このときノブオは避難先の地主に多大な影響を受け、イエス様を救い主として受け入れました。ウイニペグ・セントラル・アライアンス教会で養われ、その後リジャイナのカナディアン・バイブル・カレッジに行きました。

母教会にサポートされながら、彼は戦後日本へ2世宣教師として行きました。広島地域に根を張り、そこの聖書学校で教えました。そのころ、米子さんと出会い結婚し、長男ティムが誕生しました。その後四国にある小さな島で牧師として奉仕し、そこで双子ジョイとデイビットを授かりました。しかし、1961年に結核となり、帰国を強いられウイニペグに移り住みうつりました。末っ子のフレッドはウイニペグで生まれています。

クールで24年間教員として勤めました。そして教師としてはたらく傍ら、1967年にウイニペグ・アライアンスチャーチを創設しました。2001年に牧師を辞任するまでその働きを続け、その間、マツバラ師のすばらしい人柄、満ち溢れる神様の愛によって、地位や学歴の高い人を含め、いろいろな人が教会へと導かれました。

ノブオ・マツバラ師の葬儀の場で、長男ティムさんはこのように父ノブオのことを語っています。カナディアン・バイブル・カレッジに行っていたころは、日中は勉強に励み、夜は、夜勤としてガソリンスタンドで働き、家族を養ってくれました。

マツバラ家はいつも開かれた家で、教会に来てくれた人、誰でもあれ長期、短期を問わず、自由に滞在出来る場所でした。そのようなわけで、父には僕たち血のつながった家族だけではなく、多くの子どもや孫がいます。

父は、マニトバマラソンを8回も完走したスポーツマンでした。父は、孫5人をととも自慢にしていました。マツバラ師の83年間の生涯を振り返って、長男ティムさんは、父の人生は良い地にまかれた種のよい見本のような人生であったと語り、締めくくっています。

結核の療養所を退院した後、セブン・オーク・パビリック・ス

吉田エドワード牧師

ウエスリーチャペル日本語教会

2385 Warden Ave., Scarborough, ON M1W 2L6

日曜礼拝午前11時より

吉田エドワード牧師 電話：416-261-4302 初瀬川宗敏牧師（日本語部）647-347-3167

Website: www.wcjc.ca



初瀬川牧師家族

「ドーナツ、一本」

初瀬川宗敏牧師

私たちの教会の今年のビジョンは「神の家族の素晴らしさと魅力を味わう」(To seek and taste the beauty and magnificence of God in His loving family)です。その通り、礼拝後の交わりはますます豊かになり、交わり

を中心とした学びの会も持つようになってきています。季節ごとの行事・集会における交わりにおいても同様です。

私たちの教会は、毎年恒例の野外礼拝&バーベキューを7月4日に行いました。今年の参加者は、今までの中で最も多く、120名を越える数となり、大勢の方と共に自然の中で神様を礼拝する恵みにあずかりました。ジーザスファミリーによるプレイズタイムは、参加者の心を神様に向けさせてくれました。清水先生ご夫妻の特別賛美が聴衆の心にさらに喜びを増し加え、メッセージにおいては詩篇8篇から福音がまっすぐに語られました。お昼のバーベキューは、サバやサーモン、韓国風焼肉が参加者の舌を喜ばせ、交わりを一層盛り上げてくれました。

食後は、続いて座ったまま交わりを楽しむ方もおられました。特に若い人たちは、素晴らしい天候のもと、サッカーやバレーボール、フリスビー、ゴルフコンテストなどのスポーツをしながら、神の家族の交わりを楽しんでいました。そして午後のひと時を最も盛り上げたのは、パン食い競争ならぬ、「ドーナツ食い競争」でした。子供も大人も、逃げるドーナツを必死に追いかけて、かぶりついていました。競争が終わったときには、みんな顔中

シナモンやチョコレートまみれになった笑顔を自慢していました。

9月には、バンクーバーから福音を伝えるために車でカナダ横断している「カナダ一本」のミッションチームを迎えました。20歳前半の若い彼らは、7人でトロントに訪れ、4日間、いくつかの教会等で集会を持ちました。慣れない土地にも拘わらず、彼らは素晴らしいフットワークを見せ、過密スケジュールを主の力をいただいて全うしました。

チームは、私たちが関わるナイアガラの日系クリスチャンネットワークにおいても集会を行いました。そしてチームは日曜日の朝には、私たちの教会に来て礼拝の奉仕をして下さいました。神様の豊かな臨在の中、素晴らしい賛美がささげられ、力強い証とメッセージが人々の心を打ちました。彼らのように若くて神様に仕える人々がもっと教会に起こされて、トロントの地の日本人・日系人の救いのために共に働くことができたらと願われました。そしてそれが神様の思いであることもはっきりと教えられた集会でした。トロントでは、カナダ一本のチームの働きを通して、多くの人々に素晴らしい神様の恵みが注がれました。彼らが蒔いた種が各地で芽を出し生長し、やがて多くの実を見ることを神様に期待しています。また、彼ら一人ひとり行く所どこにおいても、主がこれからも大いに用いて下さることを確信するゆえに、主への期待は高まるばかりです。

チームの方々と共に礼拝し交わり、教会の一致と士気が高まったように思います。私たちの教会も、彼らのように、そして「ドーナツ食い競争」の勇者のように、結果を恐れず主にゆだねてチャレンジしていく群れとなっていきたいと思います。*

エドモントン日系キリスト教会

場所：Zion Baptist Community Church 電話：780-488-4168

9802—76th Ave. NW, Edmonton, AB T6E 1K5

日曜礼拝：午後2時より（バイリンガル）

www.telusplanet.net/public/ejpc



エドモントン日系キリスト教会より イエスキリストの御名によりご挨拶申し上げます。

いつも私達の事をお祈りの中に覚えてくださりありがとうございます。引続いて牧師先生が与えられますように私達の教会のためにお祈りくださるようお願いいたします。

この夏は実に、サニーサイド・キャンプ、ゴスペル・カップ・ソフトボールの試合など、私達の教会にとって行事の多いものでした。日本からアメリカから、キャンプに参加された後、多くの方々がお訪ねして下さり、共に主を礼拝する恵みに預かりました。

7月には、私達の教会から、そしてエドモントン以外からの訪問者も含めて何人かがサニーサイド・キャンプのスタッフとして、奉仕、参加していただくことができました。

小学校低学年の先生のアシスタントとして留学中のアメリカから来てくださった、勝谷アイ姉は「初めて訪れたカナダで、またサニーサイドキャンプで、皆様を通して、神様の御業がなされているのを見て私も恵まれました。」と言って下さっています。

今年の日本語部の講師として、日本の米沢興譲教会から多くの

の方々を連れて参加された高野昭先生から送られた、参加された方々からのキャンプの印象をまとめてみますと、多くの方が、「一週間のキャンプは、豊かな御言葉、賛美礼拝、赤ちゃんからお年寄りまで交わりを共にし、他の教会からの多くの参加者と共に人間関係を築く喜びを感じられた。」ということでした。

8月には、ゴスペル・カップ・ソフトボールの試合がエドモントンにおいて行なわれ、私達の教会がホストしてゲームの後の交わりが持たれました。この行事は毎年夏に、エドモントン日系キリスト教会とカルガリー日系福音教会との間で行なわれています。

カナダ一本ミッション・グループ

がカナダ横断旅行をし、私たちの教会にも来て下さいました。共に、礼拝、証し、賛美、そして、キリストの愛のメッセージを通して全カナダの他の日系教会とのつながりを認識することができました。*



サニーサイドキャンプ2010



場所：301 Silver Star Blvd., Scarborough, ON M1V 0B6
 日曜礼拝：午前11時より(日本語/英語)
 教会電話番号：416-335-JGCT(5428) FAX: 416-335-5932
 佐藤明男牧師(日本語部) 416-495-1534
 戒崎レイ牧師(英語部) 905-597-5428
 上田ケビン牧師(ユース部) 647-298-6422
 Website: www.jgct.com



レイ・エビスザキ牧師(英語部)

サマーキャンプ：今年のキャンプには、54人の子供たちが参加してくれました。例年参加者数の年齢が上がってきて、高校生などが増えてくるのに対し、新しい低学年のキャンパーを与えられるように祈っていたので、初参加者も含めて12歳以下のキャンプ参加者が多かった今回のキャンプには、おおいに励まされました。キャンプの中では5人の子供たちが新しくイエス様を救い主として受け入れ、神様の祝福を感じるすばらしいキャンプとなりました。

8月16日は、キャンプ直後の日曜礼拝ですが、この日はキャンプ参加者とその家族を招いたキャンプサラブレーション礼拝を行いました。156人の参加者が与えられ、エネルギーに満ち溢れたすばらしい礼拝と交わりのひと時を過ごしました。この経験からも、キャンプに参加した子どもたちなどにむけて、フォローアップを行う必要性を感じさせられました。キャンプ等、行事のあるときにだけ参加してくれる人たちが、教会にもっと親しみをもち、一年を通して時々集まり、お互いを励ましあう機会を作っていきたいと思っています。

10月23日に、トロント日系福音教会は50周年を迎えます。CJM宣教師の木下ヒコ師、メーベル・シャープル師を通してトロントでの宣教活動が始まり、1960年に教会として組織されました。50周年記念会のテーマは「感謝、信頼、希望」です。50年間の間に7つの違う場所を転々として礼拝を続けてきたこの教会は2年前に会堂を与えられました。今までの歩みを神様に感謝すると共に、これから神様がなしてくださることにも期待をして、感謝と信頼と希望にみちた50周年記念会を持ちたいと思っています。*

佐藤明男牧師

今年の夏は、トロント日系福音教会と他の福音的な教会が協力していくつかのミニストリーが行われました。ひとつは、7月31日から8月2日に行われた「北東日系クリスチャン修養会」の講師の島田直牧師をお迎えして、修養会の後集會が開かれました。修養会のテーマは、「全てを益に変えられる主」でした。

もう一つは、9月の初めに西海岸より「カナダ一本」という8人の若者たちのミッションチームがトロントを訪問して下さいました。彼らがトロントに到着した9月3日(金)の夕方、福音教会で福音派の教会が集まって持ち寄り夕食会が持たれ、大勢の方が参加して下さいました。続いての集會で、彼らによる賛美と証、メッセージが取り次がられました。日曜日には、「もみじ」というシニアホームで、トロント日系クリスチャン教連絡会主催の集會で奉仕をして下さいました。後日、参加されたもみじ在住の方が、主イエスを信じて救われました。彼らの主イエスへの愛、伝道への情熱に励まされたと同時に大きなチャレンジを受けました。

福音教会としては、日本の青森県で教会を開拓し牧会しておられるOMFのジェント宣教師ご夫妻が、報告旅行のためにトロントに帰ってこられ、福音教会の夏季聖書キャンプの講師を務めて下さいました。そして、9月に入ってから、日本語部のスモールグループで宣教報告や奨励をして下さいました。

ハワイから2年ぶりに中野雄一郎牧師がトロントを訪問して下さい、8月25日に2回集會が開かれました。中野牧師は人々を笑いと涙の渦の中に入れつつ、しっかりと聖書の御言葉を通して、みなさんの心に残るお話をして下さいました。

主は、生きておられます。そして、私たちを通して働かれます。このように数々の賜物を頂いた素晴らしい器をトロントに送って下さり、私たちを励まして下さいました。私たちはどこにいても、主イエスにあって一つです。心から素晴らしい主の御名を賛美します。*

バンクーバー日系福音教会

425-11th St., New Westminster, BC V3M 4G1
 日曜礼拝一午前11時より(日本語/英語)
 福迫徹也牧師(日本語部) 604-517-4578 vjgc@telus.net
 Website: japanesegospelchurch.com



「更なる成長」

主の御名をほめたたえます。

神様は私たち一人一人の生活の中に働いておられますように、キリストのからだであるそれぞれの教会にも働いておられます。主が今年、これまで私たちの教会で多くの御業をなしてくださることを感謝しています。

主は今年の4月から5月にかけて行われた第2回韓国ミッショントリップを豊かに祝福して下さいました。15名の教会員が参加しましたが多くの霊的な恵みを受けてきました。参加者の信仰が成長しただけでなく、その働きの実として毎週金曜日の朝6時から早天祈禱会が始まりました。現在、私たちの教会には週4回の祈り会が行われていますが、合計で約80名の人々が参加し、熱心な祈りが積み重ねられています。今年の夏の教会ファミリーキャンプも素晴らしいときでした。スピーカーの中野雄一郎先生ご夫妻と黒田撰さんの楽しく、霊的なメッセージに参加者一同が素晴らしい恵みを受けました。キャンプでは3名の人々がはっきりと信仰を告白し、洗礼準備クラスを受けています。洗礼に関しては、今年、す

に12名が受けており、現在、更に6名の希望者が与えられています。

第5回「ゴスペルナイト」は10月8日にマイケルJ. フォックスシアターで行われる予定です。昨年は約500名の参加者がありましたが、今年は会場が満席(620名)になることを祈って備えています。毎年、「ゴスペルナイト」やその練習を通して、霊的に成長する人や教会につながり救われる人が起こされています。今年は8つの韓国教会が日本人の救いに重荷を持ち、ゴスペルナイトに協力してくれていますことを本当に感謝しています。

11月には私たちの教会の献堂20周年記念礼拝を持ちます。これまでの歩みと現在を主に感謝し、これからも主のご栄光を現し、主から与えられた新たなビジョンを分かち合うときとしたいと願っております。

遣わされた場所は異なっても、'ご一緒に主の働きを推し進めて行きたいと願っております。皆様の上にも主の祝福を心より祈りたいと思います。*

ビクトリア日系人教会

場所：First Baptist Church (877 North Park St., Victoria BC)

日曜礼拝：1時半より

牧師：川口竹志牧師 take4kawaguchi@gmail.com



川口竹志牧師

2008年の3月に牧師として就任しました（実際の牧会は2008年6月から）。この2年半くらいの間で11人の方が信仰告白をし、5人の方が洗礼を受けられました。神様がこのように救われる魂を送って下さり、教会と牧会が今日まで守られている事に感謝です。

教会の状況

私たちの教会は毎週20～30人前後の集まりです。ビクトリアには大学、語学学校など沢山あるので、教会も若い人達が多く集まる傾向があり、礼拝出席者のほぼ半数は10代から20代の若者です。多くの海外邦人教会が抱えている事だとは思いますが、私たちの教会は今年の夏に多くの方を進学など、様々な理由で日本、また他の地へ送り出す事になり大幅な人数減少となりました。

集会

私たちの教会は毎週木曜日の祈禱会を初め、毎週水曜日にユースバイブルスタディー、第1、3金曜日Youth Fellowship Night（ユースによる賛美と証しと祈りの時）、第2、4金曜日にHomebuilder's Group（聖書からの結婚、家庭等の学び）、隔週月曜日には英語でのバイブルスタディー、また、毎月第3水曜日にサフランの会（婦人会）などの集会を持っています。また毎週日曜礼拝の後に、日本の大学で英語を教えておられ現在退職された方による無料英会話クラスをもっています。

牧会

私自身牧会経験ゼロという状態に加え、前任牧師からの引き継ぎもまたゼロというスタートを与えられ、ビクトリアという地理的状況にも何

か孤独感を煽られつつ、暗中模索しながらの牧会を続けています。その中で今年初めてCJMのカンファレンス、ならびにサニーサイドキャンプに参加する事ができ、カネシロ先生を初め教会のリーダーの方達と知り合う事が出来たのは非常に感謝でした。また、今年は「カナダ一本」チームがビクトリアまで足を運んで下さり、神様が新しい風を教会に送って下さった事を感謝しています。若者達の神様に対する熱い思いと、魂の救いの為の行動力にとっても励まされました。

これから

去年の夏頃から、ビクトリア日系人教会の活動理念やビジョンの土台となる教会のコアバリューを明確にするべく話し合ってきましたが、今年の夏にこの話し合いは取りやめになってしまいました。そのこと事態は大きな問題とは思いませんが、ビクトリア日系人教会がこれからどのように進むべきかという一致した方向性がありません。神様がビクトリア日系人教会に何を求めておられるのか、このビクトリアでどのような牧会を求めておられるのか、それを折り求めて行く事がこれからの課題かと感じています。



ビーチにて洗礼式

お祈り下さい

- ビクトリアにいる日系人の救いのため
- 教会の一致のため
- 牧会の為の知恵と助け手が与えられる事
- クリスマスの礼拝、祝会に向けての準備のため*

グレースポイントフェローシップ

(カルガリー日系福音教会英語部)

教会所在地：2203 - 15A St. S.E., Calgary, AB

英語部：ブライアン・ラベンダー師 日本語部：現在無牧

Website: www.calgarygospel.com



ラベンダー牧師家族

神様のすばらしさを思うとき、それが尽きてしまうことはありません。「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移りかわりや、移り行く影はありません。」ヤコブ1章17節

ん。」ヤコブ1章17節

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」ローマ8章28節

この御言葉を何度熟考したことでしょう。それでも、神様のよさ、神様がどれだけ良いもので私たちを満たしたいと思っているのか、完全に理解することは不可能です。神様は私たちの想像を絶するすばらしい方です。しかしながら、私たちは試練や困難に直面するとき、その神のよさを忘れてしまいがちです。神の御恩を受け継ぐものとして、神の家族に迎え入れられたものとして、死と裁きからまぬかれ、光と命の中に引き入れられたものとして、私たちは困難を受け止めているのでしょうか。

神様は、私たちの教会にとっても、困難の中でも混沌の中でも、良い方であり続けてくださっています。日本語部は引き続き牧師招聘していますが、牧師不在のこの期間にも、神様がすばらしいリーダーをたててください、奉仕に励んでくださっていることを、本当に感謝しています。

私が多少の苛立ちを感じていることは、私たちが届いていきたい対象である地域住民の方が、あまり教会を訪れていないということです。確かに、教会周辺地域に協会員の方が誰も住んでいませんので、それが大きな原因のひとつかもしれません。そんな中でも、地域から来てくださっている何人かの方が、だんだん教会に根付いてきており、それを見ることは私たちにとって大きな祝福と励ましです。現在私たちは毎月第3日曜日に「うどんサンデー」と行っており、地域の人や、教会員の友人が訪れるよい機会となるように願っています。

この夏は、サニーサイドキャンプで、祝福されたすばらしい時を持ちました。そして、ゴスペル・カップ・ベースボールゲームではエドモントン教会の方々と対戦し、よい交わりのときを持ちました。良き事の源である神様に感謝します。*